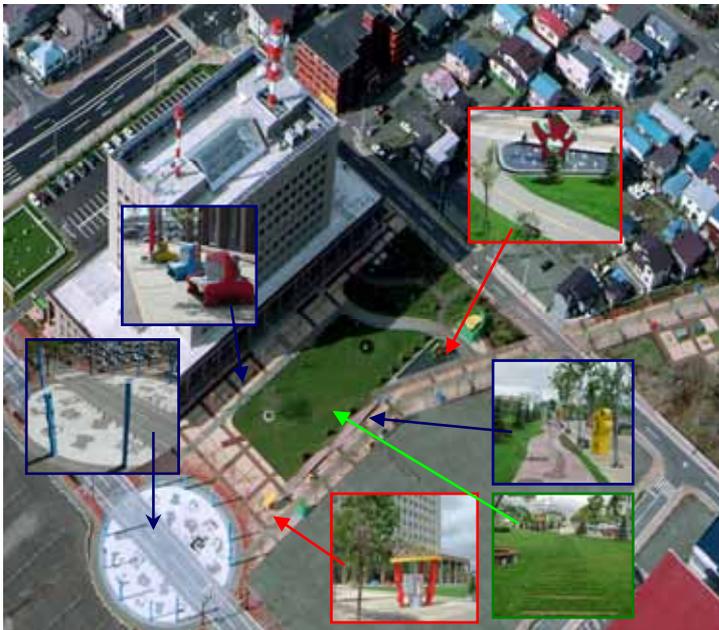
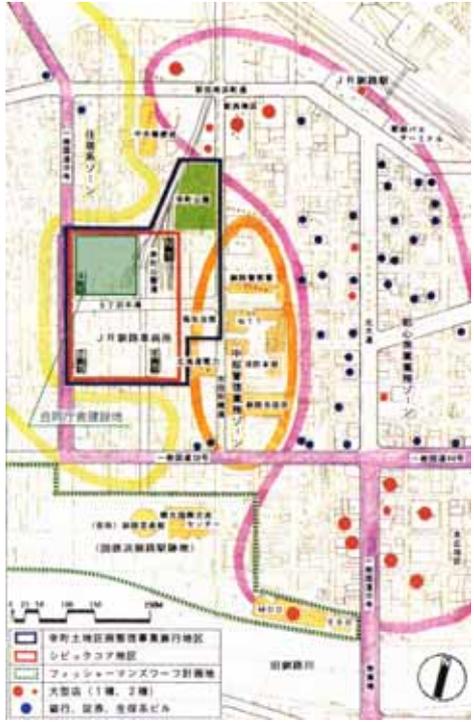


観光社会資本の事例

テーマ	パブリックアートによる地域観光振興
<p>【施設の状況写真】</p> <p>シビックコア地区中央広場のアート 釧路シビックコア地区の中央広場は、釧路の歴史と未来をつなぐ市民のための広場です。ここには、さまざまなアートが埋めこまれています。 色鮮やかで楽しいベンチや照明灯、休憩施設は、ポルトガルのアーティスト、ジョセド・ギマラインシュさんが制作しました。 そのひとつひとつに、ギマラインシュさんが3年間にわたって釧路を訪れ、触れた釧路の歴史・風土・文化が刻みこまれています。 幸町公園のSLに隣接してある枕木を使った作品は、釧路在住のアーティスト、中江紀洋さんによるもので、旧国鉄時代の車両基地であったこの土地の記憶をよみがえらせてくれます。</p>	
<p>【施設の利用写真】</p> <p>愛らしく、愉快的なキャラクターたちは、釧路のマスコットとして人々に親しまれ、愛されることを願っています。 釧路シビックコア地区の中央広場は、ひとりのアーティストがまち全体のさまざまな機能をアートにした、世界でもめずらしい広場です。</p>	
<p>【観光資源としての利用状況】</p> <p>釧路駅より和商市場を抜けて幸町公園を歩いていくと、釧路シビックコア地区の釧路合同庁舎にたどり着きます。 釧路シビックコア地区には、賑わいのある中央広場を中心に沢山のパブリックアートがあり、愛らしい愉快的なキャラクターたちが出迎えてくれます。 そのパブリックアートを追いかけてゆくと道立釧路美術館があり、その先の運河沿いのフィッシャーマンズワーフ MOO を通って幣舞橋にたどり着く道は観光コースとなっています。 これらの施設は釧路アートスタンプラリーのアートスポットであり、合同庁舎内のアート照明や案内アートもアートスポットの一つとなっています。</p>	

テーマ	パブリックアートによる地域観光振興
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 釧路合同庁舎(釧路シビックコア地区)</p> <p>所在地 釧路市幸町10・11丁目、浪花町10・11丁目</p> <p>事業名 官庁営繕事業</p> <p>事業主体 北海道開発局</p> <p>事業期間 平成12年(完成)</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>釧路シビックコア地区は、国の合同庁舎を核として、行政や文化、業務の中核的な複合施設を集積した地区です。</p> <p>この釧路シビックコア地区に建つ釧路合同庁舎は、全国で初めてシビックコア地区整備制度の導入により整備された施設であり、釧路市の市街地を活性化し、潤いと賑わいのある街づくりに寄与するシビックコア地区の中心施設です。</p> <p>施設整備にあたっては、市民及び釧路市を含めた「まちづくり委員会」で協議を重ねながら建設を進めました。庁舎は、地域行政の中核施設として利用されると共に、地震多発地における防災拠点として免震構法を採用し、安全で耐久性の高い機能を備えた施設となっています。</p>	
<p>【位置図】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
<p>【関連ホームページ】 釧路市 http://www.city.kushiro.hokkaido.jp/tosikai/civic.htm</p>	